



指導者のための情報紙

URL: [http://www.saitama-sports.or.jp/junior\\_club/](http://www.saitama-sports.or.jp/junior_club/)

# 下ポリ、ともだち仲間たち No.27

発行：財団法人埼玉県体育協会 埼玉県スポーツ少年団 〒362-0031 上尾市東町3-1679 スポーツ総合センター

この情報紙は各単位団へ3部配布しています。指導者・母集団に回覧しましょう。

## 平成23年度 埼玉県スポーツ少年団代議員会

日時 平成23年6月11日（土）午後2時半～ 場所 ときわ会館5階



平成23年度埼玉県スポーツ少年団代議員会が、開催されました。冒頭、藤沼本部長より、このたびの東日本大震災の被災者に対するお見舞いのことばがあり、また関連して今年度の日独同時交流での受け入れ事業が、原発事故によりドイツ団員の来日が困難になり、東松山市での受け入れ事業を中止した報告がありました（北海道・東海・近畿Ⅱ・四国グループは来日）。

### 事業計画

#### 1 指導者・研修事業関係

##### (1) 認定育成員研修会

期日 関東ブロック① 10月29日（土）

関東ブロック② 11月19日（土）

場所 東京 国立オリンピック記念青少年総合センター

対象 平成19年度認定育成員資格取得者

##### (2) 認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会（県本部）

期日 10月29日（土）・30日（日）

場所 スポーツ総合センター（旧スポーツ研修センター）

\*23年度登録指導者

##### (3) 体カテスト判定員養成講習会

期日 8月20日（土）

場所 スポーツ総合センター（旧スポーツ研修セン

ター）

##### (4) 関東ブロックスポーツ少年団指導者研究協議会

期日 11月19日（土）～20日（日）

場所 ホテル「クリスタルパレス」（茨城県・ひたちなか市）

#### 2 リーダー養成・研修事業

##### (1) シニア・リーダースクール

期日 8月11日～15日（4泊5日）

場所 静岡県 国立中央青少年交流の家  
（今年度 地区より9名の参加）

##### (2) ジュニア・リーダースクール

期日 前期 8月20日（土）～22日（月）

後期 12月17日（土）～18日（日）

場所 スポーツ総合センター（旧スポーツ研修センター）

対象 中学生

##### (3) 全国スポーツ少年団リーダー連絡会

期日 10月1日（土）～2日（日）

場所 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

対象 リーダー代表2名、育成担当指導者1名

##### (4) 第10回関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

期日 11月5日（土）～6日（日）

場所 スポーツ総合センター（旧スポーツ研修センター）

\*今年度 埼玉県担当（持ち回り）

対象 リーダー代表3名、育成担当指導者1名

#### 3 国内・県内交流活動事業

##### (1) 第49回全国スポーツ少年大会（リーダーズアクション2011）

期日 8月5日（金）～8日（月）

このたびの東日本大震災により被害に遭われた方々に対し、謹んでお見舞い申し上げます。被災された皆様の安全と被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

埼玉県スポーツ少年団



場所 岐阜県：国立乗鞍青少年交流の家  
 対象 引率指導者1名  
       中・高校男女から4名  
       小学4～6年から4名  
 \*今年度 熊谷市より参加

(2) 第42回関東ブロックスポーツ少年大会

期日 8月24日(水)～26日(金)  
 場所 千葉県：君津亀山少年自然の家

(3) 第43回埼玉県スポーツ少年団大会

期日 8月12日(金)～14日(日)  
 場所 県立小川げんきプラザ  
 対象 小学5年生以上の団員・指導者  
 \*団員のみの参加も可能

(4) 第33回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会

期日 8月5日(金)～8日(月)  
 場所 北海道 札幌ドーム他  
 \*関東ブロック競技別交流大会勝者より2チーム参加

(5) 第34回全国スポーツ少年団剣道交流大会(平成22年度は中止)

期日 3月25日(日)～27日(火)  
 場所 山梨県：小瀬スポーツ公園武道館  
 補助 参加料・交通費は県本部

(6) 第9回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会(平成22年度中止)

期日 未定  
 場所 未定  
 \*開催予定地の宮城県が東北関東大地震により被災したため開催ができなくなり、現在日本スポーツ少年団と日本小学生バレーボール連盟で開催の可否を含め調整中。

(7) 第35回全日本少年サッカー大会決勝大会

期日 8月1日(月)～6日(土)  
 場所 静岡県  
 \*埼玉県サッカー協会による推薦

(8) 第30回関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会

期日 7月29日(金)～31日(日)  
 場所 群馬県  
 内容 総合開会式 29日 競技 30日・31日  
 総合開会式 群馬県総合スポーツセンター  
 (ALSOKぐんまアリーナ)

- ・軟式野球(男子) 桐生球場・広沢球場
- ・バレーボール(女子) 高崎市榛名体育館
- ・ミニバスケット(男女) 群馬県総合スポーツセンター
- ・バドミントン(選抜) みどり市民体育館
- ・空手道 群馬県総合スポーツセンターぐんま武道館

4 国際交流活動事業

(1) 第38回日独スポーツ少年団同時交流別項参照

5 広報出版・顕彰事業

(1) 「スポーツ・ともだち・仲間たち」

発刊 年3回(7月・12月・3月)  
 対象 全登録団(1団3部)・市町村本部

(2) 少年スポーツ情報誌「SPORTSJUST」(スポーツ ジャスト)

発刊 年10回(4・5月、10・11月号は合併号)毎月10日発行

(3) スポーツ少年団指導者必携書の作成

対象 認定員・認定育成員  
 \*認定時に交付

埼玉県体育協会事務所移転のお知らせ

埼玉県体育協会(スポーツ少年団事務局)は4月1日、埼玉県スポーツ総合センター内に事務所を移転しました。所在地、交通アクセス及び連絡先等は下記のとおりです。

\*所在地/上尾市東町3-1679

\*電話番号/048-779-5895

\*FAX番号/048-774-5550

〈公共交通機関を利用した場合〉

- ▶ JR高崎線・上尾駅(東口)から
  - ・徒歩約25分・タクシー約10分(駅まで約2.5km)
  - ・ぐるっとくん(市内循環バス)5番停留所  
原市循環「スポーツ総合センター」下車徒歩約2分
  - ・けんちゃんバス 5番停留所  
蓮田駅西口行き(がんセンター経由)「水上公園入口」下車徒歩

- ▶ 埼玉新都市交通(ニューシャトル)原市駅から
  - ・徒歩約20分
  - ・ぐるっとくん(市内循環バス)  
原市循環「スポーツ総合センター」下車徒歩約2分



## (4) 少年団顕彰(日本スポーツ少年団)

対象 市町村スポーツ少年団本部 6本部  
指導者 13名

## (5) 埼玉県スポーツ少年団表彰

期日 12月11日(日)

場所 浦和ワシントンホテル 3階「ブリームローズ」

対象 有資格指導者

## 6 熱中症予防キャンペーン事業

## (1) 熱中症予防グッズ特別特価販売

対象 ポカリスウェット・エネルゲン 10リットル  
用パウダー(一般市販は1リットル用)

## (2) 熱中症予防プログラムの提供

対象 県内実施の認定員養成講習会で提供

## (3) 市町村スポーツ少年団への情報提供

対象 母集団研修会・認定員研修その他スポーツ少年団研修会への協力

\*ミニセミナーの開催

## 7 諸会議

(1) 本部員会 年5回

(2) 代議員会 年1回

(3) ブロック本部長会議 東西南北各ブロック1回  
東部 杉戸町/西部 小川町/南部 志木市/北部 深谷市 (開催日時、会場については未定)

(4) 各専門委員会



## 第38回 日独スポーツ少年団同時交流

## 受入事業は中止



## 《派遣》

## ■ 派遣期間

7月20日(水)～8月11日(木)23日間

## ■ 埼玉県からの派遣団員(関東Ⅱグループ)

森田智哉

(所沢市/若松キッカーズスポーツ少年団)

井上 颯

(川口市/エイトパドミントンクラブスポーツ少年団)

根岸伸治

(小鹿野町/おがのウインディアーズスポーツ少年団)

## ■ 派遣先

ドイツ連邦共和国

[受入機関:ドイツスポーツエージェント]

\*関東Ⅱグループの受入先はヘッセン州

## ■ 研修共通テーマ

私たちにできる社会貢献(これまでとこれから)

～スポーツ・文化活動を通して～

## 《受入》中止

5月12日、ドイツスポーツエージェントより「東北

地方及び太平洋沖地震並びに東京電力福島第一原子力発電所事故の発生に伴い、参加者の辞退が相次ぎ、一部グループの編成が困難になったことにより、8グループへのドイツ団派遣を見送る」旨の通知があったことから、ドイツ団受入を中止することになったものです。

なお、予定どおり実施するブロックと中止となったブロックは次のとおりです。

\*実施ブロック/北海道、東海、近畿Ⅱ、四国

\*中止ブロック/東北Ⅰ、関東Ⅰ、関東Ⅱ、北信越、近畿Ⅰ、中国、九州Ⅰ、九州Ⅱ

\*東北Ⅱグループの受入については、当該ブロック3県(宮城、山形、福島)より辞退の申し出を受け、ドイツ側と協議の結果、中止となりました。

\*

今回の関東Ⅱ受入事業実施のため、諸準備を進めてこられた東松山市の関係者の皆さんには大変残念とは思いますが、諸事情をご理解のうえ次回の受入に向けてご協力くださるようよろしくお願いいたします。

## 種目別大会結果

## 第30回埼玉県スポーツ少年団夏季軟式野球交流大会

6月19日 荒川総合運動公園

準決勝 本庄エンゼルス 3-1 狭山メジャース

浦和ビッグウェイブ 7-5 井草ソニック野球

決勝 本庄エンゼルス 4-10 浦和ビッグウェイブ

\*浦和ビッグウェイブは7月30-31日に群馬県桐生市で行われる関東ブロック大会に出場します。

## 第35回全日本少年サッカー大会埼玉県大会

6月19日 埼玉スタジアム第2グラウンド

準決勝 越谷サンシン 2-1 ネオスFC

大宮アルディージャ 6-0 豊春SC

決勝 大宮アルディージャ 2-0 越谷サンシン

\*埼玉県サッカー協会の推薦により、大宮アルディージャは全日本決勝大会へ出場、越谷サンシンサッカースポーツ少年団、豊春SC、ネオスFCは関東大会へ出場します。





## 第17回スポーツ少年団 全国指導者研究大会報告

平成23年6月19日(日)、東京都千代田区飯田橋のホテルグランドパレスにおいて第17回スポーツ少年団指導者研究大会が「次の時代を担う子ども達を育む」を全体テーマとして開催されました。埼玉県からは最も多い52人、全国47都道府県全体では346人の指導者が参加し、4つの分科会(パネルディスカッション)での討議が行われました。

なお、午後の全体会の中で行われる予定であった座長による分科会報告を中止し、3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けた被災地域からの報告に充てられました。

ここでは、研究大会の概要並びに被災地域からの現況報告等についてお知らせします。

### A分科会

**座長:** 中村和彦氏(山梨大学教育人間科学部教授)  
**パネリスト:** 佐々木玲子氏(慶應義塾大学体育研究所教授)・吉田伊津美(東京学芸大学教育学部幼児教育学分野准教授)・工藤保子(公益財団法人世川スポーツ財団事業部課長)  
**テーマ:** 「発育発達段階に見合った運動指導のあり方」

《テーマ設定主旨》 幼少年期は運動・スポーツとの「出会い」の時期である。子ども達は、身体活動を伴う様々な遊びを通して、からだを動かすことのおもしろさや心地よさを感じながらさまざまな基本的な動きを身につけ、次いで複数の運動・スポーツを経験しながらそれをもとにした生涯スポーツに移行していくことが重要である。

このような発育発達段階に見合った運動・スポーツ経験が、成人期以降にまで運動やスポーツ経験を持ち越すことができる望ましい身体活動のあり方であると思われる。こうした観点から、今年度から完全実施されている新しい学習指導要領による小学校体育においても、運動遊びを通しての基本的な動きの習得の重要性が示されている。

### B分科会

**座長:** 木村和彦氏(早稲田大学スポーツ科学部教授)  
**パネリスト:** 小出利一(新町SVGスポーツ少年団代表指導者)・榎原孝彦(NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブマネジングディレクター)  
**テーマ:** 「総合型地域スポーツクラブの効果を評価する」

《テーマ設定主旨》 文部科学省の調査(2010年)によると、全国の71.4%にあたる市区町村において、合計3,114の総合型地域スポーツクラブ(創設準備中クラブを含む、以下総合型クラブという)が育成されてきている。また、2011年からの概ね10年間で実施すべき政策目標や重点施策を網羅した「スポーツ立国戦略」においても、5つの重点戦略の一つとして「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」を掲げ、そのための重点施

策として「総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ環境の整備」を提示した。

それにも関わらず、1995年に始まった文部省の育成モデル事業以来15年を経過した今、総合型地域クラブ育成の機運に停滞と限界を感じる人は少なくないだろう。もちろん、長期化する政策のマンネリ化もあるだろうが、スポーツ立国戦略の中で次の10年間の重点施策として位置づけ、一段のステップアップを図るためには、これまでの取り組みの成果と課題を、現実的な証拠に基づいて検証する必要があるだろう。行政主導の設立とto toの補助金の配分(量的拡大)に焦点を置くのではなく、本来目指した成果を上げてきているのか、十分でないとするとその原因は何かを多面的に評価することから始めなければならない。

### C分科会

**座長:** 佐藤充宏氏(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授)  
**パネリスト:** 吉田繁敏(名古屋市東山スポーツ少年団指導者)・祝原 豊(静岡大学教育学部准教授)・古澤好一(茨城県スポーツ少年団常任委員)  
**テーマ:** 「地域ニーズに対応する少年団:リーダー制度の活用」

《テーマ設定主旨》 変貌する地域において持続可能な単位スポーツ少年団にしていくためには、地域住民のニーズに耳を傾け少年団理念に基づいた柔軟な発想で活動を開発していくことができる指導者が求められる。そのためには、単位団活動を支える地域マネジメントの知識や技能、すなわち「支えるスポーツ」の学習の機会が重要となってきた。

そこで、新しい単位団の「支えるスポーツ」の相互支援ネットワークづくりとしてリーダー制度を活用してみてもどうか。リーダー養成は団員の中核的人材の養成、指導者への導入を主眼として展開されてきたが、リーダーの活動の場は広がりを見せてはない。同一種目に偏りがちな単位団活動や指導者間のネットワークづくりに対して、コミュニティを基盤とした種目を越えたリーダー養成の事業を位置づけることで、新たな単位団同士の理念を具現化する「相互支援」関係を構築することが期待される。理念に基づいた単位団同士のリーダー養成ネットワークづくりこそ、少年団再生の鍵になり、その成果として要請したリーダーが次世代の少年団の中核的指導者として、地域プロデュースに関わって行ってくれるはずである。

### D分科会

**座長:** 富田寿人氏(静岡理工科大学准教授)  
**パネリスト:** 米谷正造(川崎医療福祉大学医療技術学部教授)・岩淵敬一(宮城県スポーツ少年団顧問)・山本哲治(福井県スポーツ少年団常任委員)  
**テーマ:** 「地域づくりに貢献するスポーツ少年団の活動」

《テーマ設定主旨》 日本スポーツ少年団は、平成21年に「スポーツ少年団の将来像」をまとめた。その中で「スポーツ少年団



の理念」に「スポーツ人をつなぎ、地域づくりに貢献する」という新しい理念が加えられた。ご存知のように、スポーツ少年団は地域の中に置かれ、育てられてきた団体である。にもかかわらず、なぜこの新たな理念が加えられたのか。それは、現状のスポーツ少年団の活動が、本当に地域に認められ、広く多くの人から支援をいただける内容となっているのか？一部の人達による閉鎖的な団体となっていないのか？という不安が払拭できないからである。

## 東日本大震災被災地の被災状況及び現況報告

3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心とする太平洋沖の地域に甚大な被害をもたらし、被災された方々は今なお非常に大変な生活を送られています。そうした中で、今研究大会の日程を急ぎ変更し、宮城県栗原市の岩瀬敬一氏（宮城県スポーツ少年団顧問・宮城県栗原市有賀スポーツ少年団代表指導者）から東北地方におけるスポーツ少年団に関連した被災状況などについて報告されましたのでその概要について掲載します。

### 《被災状況》

3月11日（金）午後2時46分18秒、宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、震度7（宮城県栗原市）の大地震が発生。さらにその直後大津波が発生し、東北地方の沿岸部の地域のほとんどが被害を受けた。今回の地震の最大震度や規模及び津波による被害等は1000年に一度ともいわれる、まさに未曾有の被害状況となった。

また、福島県では地震に伴う津波に端を発した原発事故も発生し、収束の見通しが立たず、地震による被災者にさらなる負担を強いている。

宮城県では882の小中学校が被害を受けたほか、10万人の県民が県外に避難している。したがって、スポーツ少年団関係者の状況が把握できない状態である。

《学校教育を取り巻く問題》＊施設が被害を受け校舎を使用できない学校は近隣学校の間借りなどで授業を行っている＊体育館が損壊した学校では体育授業が屋外活動のみ＊給食センター倒壊のため給食メニューの大幅な変更＊校庭、プールの使用制限＊精神的なストレスを抱えている＊体育館で避難所生活を送りながら学校に通う子どもたちも多い

《スポーツを取り巻く問題》＊活動場所の確保（スポーツ施設が避難所として使用されているほか、災害対策本部や救援基地として利用されているため、スポーツを行う活動場所を確保することが難しい状況）＊スポーツ用品の確保（被災者のほとんどの人が、用具等を流出してしまったため困っている）＊自粛ムード（全国的な自粛ムードは震災直後より改善したものの一部にはまだムードが漂う中、スポーツをしたい子どもたちへの対応に苦慮している）＊生活基盤の変化（転居・家族の離散、保護者の失業）＊行方不明者の捜索とがれき撤去問題

《スポーツ少年団運営に関する問題》＊団の情報把握が困難（事務局が機能しなしたため）＊団運営の問題（団員及び指導者が避難などのため転居や家族の離散、保護者の失業等により退団するケースなどがあり団運営に問題が生じている）＊事業の見通しが立てられない（諸事業について中止または縮小せざるを得ない。今年の日独同時交流受入事業も中止となった）＊災害対応が中心になっている市町村本部機能の復旧見通しが立たない＊登録料（徴収方法等の問題もあったが、日本本部により免除となったことはありがたい）

■団員の状況及び今後の指導にあたって

＊地震や津波によって家族を亡くしたり、想像を絶するさまざまな被害を目の当たりにしたりした子どもたちは、心に大きな傷を負っている。普段は元気そうに見えても、一人になると暗い顔になり、とても辛そうである。子どもたちに対しては、継続的に心のケアを行っていくことが大切である。＊震災後、「子どもたちに対し、自分で自分の命を守ることを教えていくことも大切である」と痛感した。そうしたことから、指導者に「子どもたちに対しては『君たちは決して1人ではない。応援してくれる人達がいっぱいいる。』ということを保つとともに、命の大切さをしっかり伝えることが大切。そして、「スポーツをとおして子どもたちに笑顔」を提供できるような団活動を目指して取り組んでいきたい」と呼び掛けている。＊被災地域外の指導者の方々には、被災地の現状を子どもたちにぜひ伝えていただきたい。

## 東日本大震災復興支援『とどけよう スポーツの力を東北へ！』

### 東日本大震災で被災した子ども達へのスポーツ用品等支援のご協力をお願い

このたびの東日本大震災のため、スポーツ用品を失ってしまい、スポーツ少年団活動ができない子ども達が大量にいます。そうした中で、このほど福島県スポーツ少年団から日本スポーツ少年団を通じて各都道府県スポーツ少年団に対し支援の要請がありました。また、宮城県においても引き続き支援を要請中です。つきましては、被災された子ども達が一日でも早くスポーツ活動を行えるようご協力をお願いします。

なお、スポーツ用具等の提供を申し出る場合、ホームページ上の「必要としている物資一覧」をご確認の上、それぞれの県体育協会のスポーツ少年団係あてにお問い合わせください。

#### 【問い合わせ・連絡先】

・福島県体育協会ホームページ

<http://www.sports-fukushima.or.jp/>

・宮城県体育協会ホームページ

<http://www.miyagi-taikyo.or.jp/>







## 少年団活動に十分な安全対策を！

### 1 熱中症予防

熱中症とは、暑熱環境で発生する障害の総称で、熱失神、熱疲労、熱けいれん、熱射病にわけられます。

**熱失神** 皮膚血管の拡張により血圧が低下し、脳血流が減少し、めまい・失神などがおこり、顔面蒼白となり、脈は早く弱くなる。

**熱疲労** 脱水による症状で、脱力感、倦怠感、めまい、頭痛、吐き気などがみられる。

<対処法> 涼しい場所に運び、衣服をゆるめて寝かせ、水分を補給すれば、通常は回復します。足を高くし、末梢から中心部に向けてマッサージするのも有効です。

**熱けいれん** 大量に汗をかいたときに水だけしか補給しなかったために、血液の塩分濃度が低下し、足・腰・腹部の筋肉に痛みをともなっただけいれんがおこる。

<対処法> 生理食塩水(0.9%)を、補給すれば通常は回復します。あくまでも、応急処置なので病院での診断をお願いします。

**熱射病** 体温の上昇により中枢機能に異常をきたした状態。意識障害（反応が鈍い、言動がおかしい、意識がない）がおこり、死に至る危険な緊急事態です。

<対処法> ただちに救急車の要請をすること、同時に救急車到着まで冷却措置をとること（水をかけたり、濡れたタオルを体にあてて冷やす）や氷、アイスノン等を脇の下、首筋に当てて大きな血管を冷やすことも効果的です。

いかに早く体温を下げて意識を回復させるかが予後を左右するので、現場でのすばやい対応が重要です。

\*

スポーツ少年団活動において、指導者のかたは、屋外・屋内にかかわらず気温が高く、湿度も高いときは、熱中症が予測されます。こどもたちの様子を観察し、早めの休息をとり、無理のない活動スケジュールをとるようお願いします。

スポーツ活動中の熱中症予防8カ条

- ①知って防ごう熱中症
- ②あわてるな、されど急ごう救急処置
- ③暑いとき、無理な運動は事故のもと
- ④急な暑さは要注意
- ⑤失った水と塩分を取り戻そう

⑥体重で知ろう健康と汗の量

⑦薄着ルックでさわやかに

⑧体調不良は事故のもと

### 2 雷・天候の急変に注意

これからの暑い季節では、急激な天気の変化・雷の発生が予測されます。野外活動での川の急な増水・グラウンド等での落雷などに、指導者のかたは適切な対応をお願いします。

### 3 合宿および遠征試合等の注意

夏休みに入り、合宿・遠征試合等が数多く予定されていることと思います。技術の向上をはかり、安全で楽しい夏休みの思い出を指導者・保護者・団員全員で作りたいと思います。

①無理のないスケジュールをたてること。

気温・天候状況により柔軟な対応にする。

団員の体調に気をくばり、こまめに休息をとる。

②移動手段について

引率の指導者・保護者の自家用車での移動が多いと思われませんが、必ず交通法規を守り、安全運転に努めてください。

\*車が数台になるときは、事前に運転者同士で打ち合わせを行うようお願いいたします。

③宿泊活動の場合

活動スケジュールは、団員・引率指導者ともに理解をする、事情・時間に余裕のある場合、現場の下見を行い、危険箇所のチェック・活動スケジュールのシミュレーションを行い、安全確認をしましょう。

④食中毒に注意

夏の高温・多湿により、食品の傷みが考えられます。弁当等取り扱いに注意をして、また手洗い・うがいを十分におこない予防しましょう

からだへの負担を考えて水分補給や休憩・休養日を考慮した活動を！

### 4 施設利用の注意

①施設利用規則・注意事項を必ず守ること。体育館等利用の場合、許可場所以外の立ち入りの禁止許可利用時間の厳守。

②非常時に備えて、避難通路の確認・危険と思われる箇所の確認。

③駐車場内・駐車場から活動場所への移動の事故に注意をお願いします。

# まず参加 たのしくスポーツ みんなが主役

（財）埼玉県体育協会キャッチフレーズ

※このページは、「スポーツジャスト」に掲載された内容を転載しています。



### リーダー会が新役員でスタート!

過日、埼玉県スポーツ少年団リーダー会の総会が開催され、平成22年度の事業報告及び決算報告と新年度の事業計画と予算が決定しました。また、新役員も決まり、毎年の事業である県大会やジュニアリーダースクール、交流交歓会のほか、11月に埼玉県で開催される第10回関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会に向けスタートをきりました。

#### 《平成23年度 リーダー会役員一覧》

- 会長 永井 翔太 (戸田市)
- 副会長 牧野 朋子 (さいたま市)
- 副会長 高木 亨 (戸田市)
- 会計 湯川 志穂 (さいたま市)
- 書記 森 悠希乃 (戸田市)
- 書記 権名 舞子 (川口市)
- 理事 富田久美子 (さいたま市)
- 理事 高橋 真史 (所沢市)
- 理事 国枝 駿太 (戸田市)

### 平成23年度認定員養成講習会

平成23年度の認定員養成講習会は下記のとおり実施されることになりました(既に実施された7月一杯までの分を除く)。

他市町村での受講を希望する場合は、必ず自分の所属市町村スポーツ少年団事務局をとおして、開催市町村本部へお問い合わせください。

実施スポーツ少年団	期 日	予定会場	定員
埼玉県スポーツ少年団	10月29日・30日	スポーツ総合センター	150
さいたま市スポーツ少年団	調整中	調整中	100
さいたま市スポーツ少年団	調整中	調整中	100
川口市スポーツ少年団	8月27日・28日	川口市西スポーツセンター	70
川口市スポーツ少年団	2月4日・5日	川口市西スポーツセンター	70
戸田市スポーツ少年団	調整中	調整中	未定
新座市スポーツ少年団	9月24日・25日	調整中	60
朝霞市スポーツ少年団	9月3日・10日	朝霞市立総合体育館	25
和光市スポーツ少年団	1月15日・2月6日	和光市運動総合館	60
鴻巣市スポーツ少年団	1月14日・16日	クレアここのす	90
上尾市スポーツ少年団	9月10日・11日	上尾市青少年センター	80
所沢市スポーツ少年団	12月17日・18日	所沢市民体育館	70
緑ヶ丘市スポーツ少年団	9月10日・11日	緑ヶ丘市保健センター	45
東松山市スポーツ少年団	調整中	東松山市総合会館多目的ホール	100
川島市スポーツ少年団	調整中	調整中	未定
秩父市スポーツ少年団	1月21日・26日	秩父市スポーツ健康センター	40
本庄市スポーツ少年団	調整中	調整中	未定
桐谷市スポーツ少年団	10月22日・23日	桐谷市勤労会館	70
寄居町スポーツ少年団	8月13日・14日	寄居町球場	50
羽生市スポーツ少年団	8月20日・21日	ワークヒルズ第三	50
春日部市スポーツ少年団	12月4日・11日	春日部市総合体育館	100
久喜市スポーツ少年団	2月5日・12日	心れあいセンター久喜	100
白岡市スポーツ少年団	2月4日・5日	ハピスしらさぎ	100

### リーダー会をよろしくお願いいたします!

新会長 永井 翔太



平成23年度埼玉県スポーツ少年団リーダー会会長の永井翔太です。戸田市の戸田二サッカースポーツ少年団に所属する大学1年生です。

今年度の僕の抱負は、初心を忘れずに活動していくことです。リーダー会を運営する側で3年間活動してきて、改めてリーダーになったばかりの頃の気持ちが大切なモノだと思われています。

小学6年生の時にジュニアリーダースクールでリーダーの先輩方にしていただいたレクリエーションの楽しい雰囲気は今でも忘れられません。あの時の楽しさがリーダー会に青春を懸けられた理由であり、活力の源でもあります。今年度は様々な行事がありますが、単位団に行かせていただき、僕の原点を団員の子供たちにも知ってもらいたいと思っています。

リーダーがお手伝いできるイベント等を計画している市町村・少年団の方、またリーダー会でもリーダーを参加対象とした行事もありますので、参加したい方がいらっしゃいましたら是非、事務局までご連絡ください。今後も埼玉県スポーツ少年団リーダー会をよろしくお願いいたします。

### 来年度は

### 埼玉県スポーツ少年団創立50周年です

埼玉県スポーツ少年団は、昭和37年6月に200余名の団員をもって設立し、同じ年に設立された日本スポーツ少年団とともに来年度(平成24年度)創立50周年を迎えます。

1月の現地研修会の時に記念事業についてのアンケートを実施しましたが、全体の傾向として、経費や労力を過度にかけないような事業規模等を考慮した計画のもとで実施を提案する意見が多く見られました。

7月15日に発足した、創立50周年記念事業準備委員会を中心に、準備を進めていきます。

### 編集後記

東日本を襲った巨大地震と大津波、そして原発事故。以前、日独交流の受け入れをした家庭に、“日本は危ないから一家でドイツに避難してこい”とドイツからメールが入ったそうです。原発事故ができるだけ早く終息することを願うばかりです。

埼玉県スポーツ少年団事務局 気付「育成広報委員会」  
〒362-0031 上尾市東町3-1679 スポーツ総合センター内

TEL: 048-779-5895 FAX: 048-774-5550

E-mail: saita maken@japan-sports.or.jp